

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	岡村佳代 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】	<p>岡村佳代氏の研究は、日本社会のグローバル化とともに増加しているニューカマーの子どもの困難の現状を検討し、その困難に対する対処行動、ソーシャルサポート、ハーディネスを明らかにすることを目的としたものである。</p> <p>審査は左記の5名の審査委員により6月18日から3回実施された。第1回審査会では、審査員が研究課題に即した適切な分析がなされており、ニューカマーの子どもの困難と対処行動、また、援助資源と自己資源であるハーディネスを心理・教育的側面から検討した独創性の高い論文であると評された。また、方法論的にも質的・量的調査を用いており、研究結果の妥当性が評価された。しかし、質的研究に関しては背景要因の詳細な記述や他国との比較研究の付加、表現や形式的な面での若干の修正が指摘されたため、7月17日に再審査を行った。その結果、適切に修正がされていたため、2014年7月23日に公開発表会と最終審査が行われた。</p> <p>公開発表会では、まず博士論文に関して30分のプレゼンテーションが実施された。その後、質疑応答が行われたが、参加者や審査委員の質問に対しては真摯な態度で的確に応答したと評された。その後、行われた最終審査委員会では、審査員一様にニューカマーの子どもの困難な様相とソーシャルサポートとハーディネスとの関連を分析した独創性の高い論文であると評された。今後の発展的課題として、世界の状況、経済的な格差や貧困によるニューカマーの子どもたちの抱える犯罪や非行に関連する研究の可能性などが指摘された。最終試験では、論文内容、および周辺領域の基礎知識について口頭で説明を求めたが、適切な回答を得られたので、審査委員会では、最終試験を合格と判定した。また、本研究は異文化間教育および外国人児童生徒の心理教育支援に貢献しうるものとして高く評価され、博士（人文科学：Ph.D. in Intercultural Education）として認定するに十分であると、全員一致で学位授与を決定した。</p>
論文題目	ニューカマーの子どもの困難対処とその資源 - ソーシャルサポートとハーディネスを中心に-	
審査委員	(主査) 加賀美常美代 教授	
	内藤俊史 教授	
	大森美香 教授	
	浜野隆 准教授	
荒木美奈子 准教授		
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<input checked="" type="radio"/>否）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	